



Young Coordination Chemist's Association Japan

錯体化学若手の会

URL: <http://www.sakutai.jp/yccaj/>

Twitter ID: @sakutai_wakate



錯体化学若手の会ニュースレター

2023年度 第1号

目次

1. 2023年度事務局よりご挨拶
2. 開催案内：錯体化学若手研究会「錯体化学若手の会夏の学校2023」（再掲）
3. 開催案内：錯体化学会第73回討論会 企画シンポジウム
4. 開催案内：各支部勉強会
5. 錯体化学若手の会 2022年度会計および会員状況報告
6. 会員の最新論文紹介
7. 錯体化学若手の会 入会のご案内

発行 事務局 松岡 亮太（分子研） E-mail: [matsuoka\[at\]ims.ac.jp](mailto:matsuoka[at]ims.ac.jp)

錯体化学若手の会事務局（2023年度）

代表：松岡 亮太（分子科学研究所 生命・錯体分子科学研究領域 錯体物性研究部門）

愛知県岡崎市明大寺町字東山 5-1

E-mail: [matsuoka\[at\]ims.ac.jp](mailto:matsuoka[at]ims.ac.jp) TEL: 0564-59-5599

会計：大津 博義（ソニーグループ株式会社） E-mail: [ohtsu002\[at\]gmail.com](mailto:ohtsu002[at]gmail.com)

錯体化学若手の会ニュースレター、ウェブサイトおよびメールニュースへの記事掲載は、事務局（[sakutai.wakate\[at\]gmail.com](mailto:sakutai.wakate[at]gmail.com) または [matsuoka\[at\]ims.ac.jp](mailto:matsuoka[at]ims.ac.jp)）までご連絡ください。

※ メールアドレスはいずれも[at]を @ に変えて下さい

1. 2023年度事務局よりご挨拶

分子科学研究所 生命・錯体分子科学研究領域 錯体物性研究部門 松岡 亮太

2023年度の錯体化学若手の会事務局は、代表：松岡 亮太（分子研）、会計：大津 博義（ソーグループ株式会社）、次年度事務局：深津 亜里紗（阪公大）、ならびに監事：三澤 智世（上智大）の4名で担当させていただきます。本年度も若手の会の活動をよろしく願いいたします。

2020年の年頭から急速に広まった新型コロナウイルスの脅威の中、錯体化学若手の会はオンラインでの勉強会や夏の学校の開催、TwitterやSlackなどのオンラインツールの活用などを通じて、若手研究者間を繋ぐための活動を継続して行っていました。ウィルスの脅威はまだ続いたままですが、昨年度には、各学会が対面での研究会・学会を開催しはじめ、それに合わせ若手の会でも対面での夏の学校の開催や勉強会の実施などを進めてまいりました。数年間の自粛を経ての対面イベントは私にとって非常に刺激的で、やはり人と人との繋がりを形成していくには、実際に会って話をするのが一番効果的なのだな、と強く感じました。

そこで本年度は、オンライン形式の運営で得られた知見をうまく活用しながら、従来の、対面形式の研究者間の交流の場をよりいっそう拡充していきたいと思います。具体的には、各支部での対面勉強会の積極的な開催、昨年度に続く対面での夏の学校開催、錯体化学討論会でのシンポジウム開催、などです。このほかにも会員の皆様が密に交流できる場を提供するべく、企画を進めてまいりたいと思います。ぜひこれらの企画に積極的に参加いただき、講師の方々による講演や自身の発表、同世代の研究者との交流を通して、化学に対する情熱を熱く語り合える仲間を一人でも多く増やしていただければと思います。

錯体化学若手の会 Twitter アカウント (@sakurai_wakate) や Slack を用いた情報発信も、昨年に引き続き、積極的に行ってまいります。「この論文は錯体と関係ないからなあ…」など気兼ねする必要はまったくありません。論文が無事受理されたら、まずは若手の会にご一報を！皆様のご活躍のアピールに、ぜひお役立てください（要領は9ページをご参照ください）。なお、論文紹介や第2号以降のニュースレター配信、世話人会議の議事録閲覧は、若手の会会員限定コンテンツとなっておりますので、本年度の継続手続きを行っていない学生会員の皆様はぜひ継続をお願いいたします。

最後になりますが、本年度も皆様が健康に、実りある研究活動を送られることをお祈りするとともに、若手の会の活動を通じて皆様の研究者生活をよりよいものとするよう微力ながら努めてまいりますので、一年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

2. 開催案内：錯体化学若手研究会「錯体化学若手の会夏の学校2023」(再掲)

熊本大学大学院先導機構 関根良博

2023年度の錯体化学若手の会夏の学校は、九州支部で担当し、九州大学・西新プラザにて開催いたします。昨年度は参加者各自での宿泊形式にもかかわらず、多数の参加者と講師の先生方が熱い議論を交わし、参加者同士の親交を深める機会となりました。本年度も、宿泊を伴う会を未だ設定できないことを残念に思いますが、多くの皆様と対面で交流できることを目指して準備を進めております。講演は、触媒・超分子・計算化学・物性・有機金属など、様々な分野でご活躍の先生方に講師をお願い致しました。また、例年通り、参加者によるポスター発表と学生講演数件も企画しています。皆様からの参加申し込みを、九州支部世話人一同お待ちしております。

日 程： 2023年8月2日(水) 午後～8月4日(金) 正午頃

会 場： 九州大学西新プラザ ※宿泊なし

定 員： 100名程度を予定(状況に応じ、定員になり次第締め切り)

【参加登録費】

一般 8,000 円、学生 4,000 円

(錯体化学若手の会または日本化学会の会員は 1,000 円割引)

【参加申込締切】 2023 年 6 月 2 日 (金)

*申込締切後の参加に関する問い合わせは、関根まで直接連絡お願いいたします。

【参加登録方法】

夏の学校ウェブサイト内の参加登録ページよりお申し込みください。

<http://www.sakutai.jp/yccaj/summer/index.html>

【懇親会】

未定(決定次第、夏の学校ウェブサイト内でお知らせします)

【講演】

石井和之 先生(東京大学)

北河康隆 先生(大阪大学)

高橋雅英 先生(大阪公立大学)

田中健太郎 先生(名古屋大学)

西原禎文 先生(広島大学)

星本陽一 先生(大阪大学)

村橋哲郎 先生(東京工業大学)

宮坂 等 先生(東北大学)

その他、若手研究者、学生講演数件とポスターセッションを予定

【交通アクセス】

福岡空港から地下鉄「姪浜」行き乗車 約20分、博多駅から、地下鉄「姪浜」行き乗車 約15分、「西新」駅下車、出口より徒歩約10分

【実行委員会】

関根良博（熊本大学）、大谷亮（九州大学）、石川立太（福岡大学）、大川原徹（北九州高専）、山内幸正（九州大学）

【問い合わせ先】

関根良博（熊本大学）

E-mail: sekine[at]kumamoto-u.ac.jp（[at]を @ に変えてください）

3. 開催案内：錯体化学会第73回討論会 企画シンポジウム

ソニーグループ株式会社 大津博義

2023年9月21日から23日まで開催される錯体化学会第73回討論会のシンポジウムにて、若手の会主催の下記のセッションを開催します。先進的なアイデアが先進的な測定から生まれることは歴史が証明する通りですので、主に若手の研究者に向けて先進的な測定を用いた研究を紹介し、錯体化学と融合することでどのようなイノベーションを起こせるかを議論することを主題としています。ご参加のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

○主題

Great Ideas Come from “Advanced Fundamental Measurements”

○日時・場所

錯体化学会討論会会期中シンポジウム S4 (詳細未定)

○開催責任者

- ・ 大津博義 (Ohtsu, Hiroyoshi) ソニーグループ株式会社

Email: ohtsu002[at]gmail.com

- ・ 吉田健文 (Yoshida, Takefumi) 電気通信大学

Email: takefumi.yoshida[at]uec.ac.jp

○趣旨説明文

New concepts in science always come from “advanced measurements.” Newton’s concept of mechanics (Kepler’s law) comes from the accurate measurements by Tycho Brahe. Quantum chemistry comes from atomic spectroscopic measurements. This must be true for coordination chemistry. For example, the advance of crystallography made it possible to visualize 3D structure of coordination compounds deduced by Alfred Werner. Thus, understanding advanced measurements will induce new concepts in chemistry. In this symposium, we will touch on the advanced functional measurements to understand the new technology which leads to new innovational ideas.

○講演者リスト

佐藤宗太特任教授(東京大学), 中室貴幸特任准教授(東京大学), 庄野逸 教授(電通大), 松井公佑講師(名古屋大), 伊藤孝研究副主幹(日本原子力研究開発機構), 宮本辰也助教(東京大学)

4. 開催案内：各支部勉強会

【中国・四国支部】

第14回 中国四国地区錯体化学研究会・錯体化学若手の会中国・四国支部 第6回勉強会

共催：中国四国地区錯体化学研究会

開催日時：2023年5月27日(土) 13:00～

会場：岡山大学津島キャンパス 理学部本館21 講義室

参加費：無料（懇親会費別）

プログラム：

12:30～13:00 受付

13:00～13:10 開会挨拶

13:10～14:00 講演1：加藤昌子先生(関西学院大学)「結晶なのに柔らかい(?)発光性クロミック金属錯体」

14:00～14:40 講演2：三橋了爾先生(金沢大学)「水素結合相互作用を利用した非 Jahn-Teller 型六配位銅(II)錯体の合成」

14:40～15:10 休憩

15:10～15:50 講演3：田原圭志朗先生(香川大学)「有機半導体ユニットを組み込んだボロン錯体の開発と電気化学発光の増強」

15:50～16:40 講演4：石谷治先生(東京工業大学・広島大学)「二酸化炭素の資源化を目指した人工光合成系の創成」

16:40～16:50 錯体化学若手の会 紹介

16:50～17:00 閉会挨拶

17:45～19:45 懇親会(岡山大学生協ピーチユニオン3階)

(懇親会参加費 教員：5,000円 学生：3,000円)

世話人：鈴木孝義(岡山大学) [suzuki\[at\]okayama-u.ac.jp](mailto:suzuki[at]okayama-u.ac.jp) (TEL: 086-251-7900)

※できる限り事前参加の連絡をお願いしますが、当日参加も可能です

【関東支部】

2023年度 錯体化学若手の会・関東支部 前期勉強会

開催日時：2023年6月24日(土) 13時受付開始、17時10分終了予定

会場：東京大学本郷キャンパス 工学部5号館52 講義室

参加費：無料（懇親会費別）

懇親会：参加費3,000円、申込〆切6/16(金)

事前申し込み：講演会・懇親会ともに研究室単位で参加希望人数を取りまとめていただき、下記フォームから事前申込ください。なお、講演会は当日飛び込み参加可能です)

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeWuE1lx5A_EjByVK9BN05vk6kg9BS662DTrcBAhn01XS0xmQ/viewform



プログラム

- 13:00-13:30 受付
- 13:30-14:20 石井あゆみ 先生（早稲田大学 准教授）
「光の情報を最大限に引き出すハイブリッド材料の開発」
- 14:20-15:10 佐藤弘志 先生（理化学研究所 ユニットリーダー）
「刺激に応答して劇的に形・機能を変える多孔性結晶+研究過程の裏話」
- 15:10-15:30 休憩
- 15:30-16:20 原野幸治 先生（物質・材料研究機構 主幹研究員）
「電子顕微鏡を分子科学研究に役立てる」
- 16:20-17:10 山田鉄兵 先生（東京大学 教授）
「酸化還元平衡を上手に利用した熱電変換技術、熱化学電池」
- 18:00～ 懇親会（2時間程度）

世話人：亀渕萌（日本大学文理学部）kamebuchi.hajime[at]nihon-u.ac.jp

【近畿支部】

錯体化学若手の会近畿支部 第64回勉強会

開催日時：2023年7月8日(土) 13:00～17:00（予定）

会場：大阪公立大学 工学部 大講義室

参加費：無料

講師：門田 健太郎先生（京都大学）、吉田 将己先生（関西学院大学）、天尾 豊先生（大阪公立大学）、他学生講演者

参加登録要領：Google form (<https://forms.gle/zKi227jysHGPC4AQ6>)から6月30日（金）までに必要事項を送信。研究室でまとまって来場する場合も、一人ずつ参加登録をお願いします。会場使用規則に基づき、事前参加登録必須（当日飛込参加なし）とします。キャンセル可ですので、参加を迷っている方も事前登録することをお勧めします。べ切後の参加登録は、個別に世話人までお問い合わせください。

世話人：中藺孝志（大阪公立大学人工光合成研究センター）、田部博康（京大高等研究院 iCeMS）

問合せ先：中藺孝志（大阪公立大学人工光合成研究センター）nakazono[at]mu.ac.jp

5. 錯体化学若手の会 2022年度会計および会員状況報告

名古屋大学大学院 工学研究科 有機・高分子化学専攻 森本 祐麻

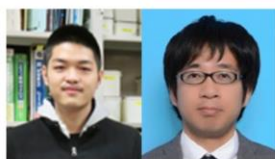
<収入>	執行額	備考
前年度繰越金	¥1,423,733	学生会員分 (次年度分振り込み分を含む) 一般会員年会費相当分
年会費	¥277,000	
錯体化学会からの移算	¥125,000	
受取利子	¥2	
収入計	¥1,825,735	
<支出>	執行額	
夏の学校支援金	¥150,000	
討論会シンポジウム支援金	¥33,000	
ウェブ勉強会講師謝金	¥10,000	
会議費 (2回分)	¥150,000	
会員管理アルバイト謝金	¥60,000	
通信費・振込手数料	¥330	
支出計	¥253,330	
差引残高	¥1,572,405	

○支部別の会員数動向 (2023年3月10日現在)

支部名	会員数 (前年度増減)	会費納入者数
北海道・東北	31 (-14)	31
関東	131 (-12)	131
北陸	8 (-13)	8
中部・東海	21 (-3)	21
近畿	124 (+10)	124
中国・四国	17 (-7)	17
九州・沖縄	39 (-6)	39
不明・海外	2 (+1)	2
合計	373 (-44)	373

(会員数内訳：一般100名、学生273名)

6. 会員の最新論文紹介

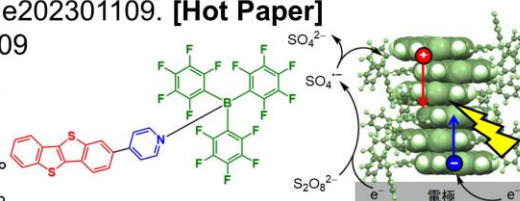


池田貴志¹, 田原圭志朗^{1a}, 石松亮一², 小野利和², Luxia Cui², 前田 桃花², 小澤芳樹¹, 阿部正明¹(¹兵庫県立大理, ²九大院工, ^a現 香川大工)

Lewis Pairing-Induced Electrochemiluminescence Enhancement from Electron Donor-Acceptor Diads Decorated with Tris(pentafluorophenyl)borane as an Electrochemical Protector
Angew. Chem. Int. Ed., **2023**, e202301109. [Hot Paper]
doi.org/10.1002/anie.202301109

ポイント

- ・ドナー・アクセプター型分子と高いルイス酸からなるボロン錯体を開発し、電気化学発光(ECL)の強度を最大で156倍まで向上させることに成功した。
- ・導電パスを持つ結晶性薄膜からECLを観測できた。

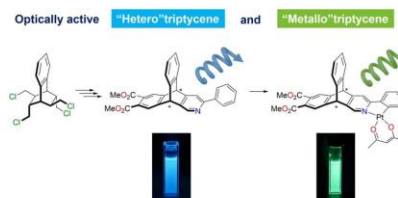


井上 僚, 古本恭介, 森崎泰弘 (関学大院生命環境)

Syntheses of Heterotriptycenes and their Pt Complexes that emit Circularly Polarised Fluorescence and Phosphorescence
Chem. Commun. **2023**, 59, 5571–5574.
<https://doi.org/10.1039/d3cc01190a>

ポイント

- ・金属と錯形成可能な“ヘテロトリプチセン”の合成に成功
- ・本分子とそのPt錯体は円偏光発光を示した

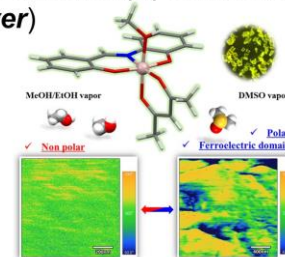


小林文也¹, 玄番美都¹, 星野翔麻¹, 築山光一¹, 塩塚理仁², 中嶋宇史¹, 田所 誠¹ (¹東理大理, ²名工大院工)

Polarity and Dielectric Property Control Triggered by a Coordinated Solvent Molecule Exchange in Luminescent Mononuclear Aluminium(III) Complexes
Chem. Eur. J., **2023**, e20220397. (Inside Cover)
<https://doi.org/10.1002/chem.202203937>

ポイント

- ・固体状態で高効率な緑色発光を示す単核アルミニウム(III)錯体において溶媒蒸気曝露による極性分子配列および第二次高調波発生 (SHG)・誘電特性の可逆的なスイッチングを達成
- ・極性集積構造への変換を圧電力応答顕微鏡 (PFM) を用いて観測した

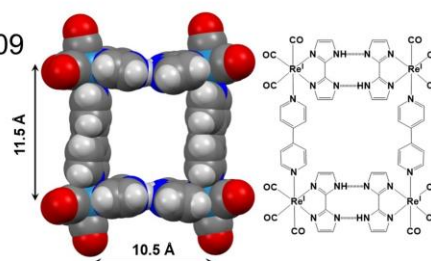


小林文也, 土方岳哉, 田所 誠 (東理大理)

Hydrogen-Bonded Molecular Square with Tricarbonyl Rhenium(I) Biimidazolate Complex
Chem. Lett., **2023**, in press.
<https://doi.org/10.1246/cl.230109>

ポイント

- ・Re(I)ユニットを用いた水素結合型分子スクエアを初めて報告
- ・共有結合や配位結合では難しい中程度のナノ空間サイズを実現
- ・孤立空間を利用した反応場としての応用に期待



錯体化学若手の会では、会員内での情報共有と学生会員のエンカレッジを目的として、2018年度より会員の発表した論文をTwitter (@sakutai_wakate) およびニュースレターで紹介しています。論文の掲載が決定された方は、是非本コーナーへの寄稿をお願いします。皆さまの積極的な投稿をお待ちしております。

掲載の条件

若手の会会員による最近の論文（およそ半年以内）であり、論文のPDFデータがオンライン掲載され、DOIが割り当てられていること

投稿要領

若手の会ウェブサイトよりダウンロードしたテンプレートに論文情報を入力し、電子メールにて下記担当者に送付ください。なお、送付前に必ず指導教員の許可を得て、その旨を本文に明記してください。

担当（2023年度）

大津 博義（ソニーグループ株式会社） ohtsu002[at]gmail.com（[at]を @ に変えて下さい）

7. 錯体化学若手の会 入会のご案内

本会は、錯体化学会の支部として錯体化学に関連した分野で研究を行っている若手の研究者（大学・企業・研究所の研究者）および大学院生・大学生の交流・情報交換を通して、自らの研究に対する情熱と知識を高め、エンカレッジする会です（2022年度の会員数 393 名）。錯体化学に関心のある学生または 40 歳以下の方であれば、スタッフ・企業人・大学関係者等の所属や身分を問わず、どなたでも入会いただけます。日本全国の同世代の研究者と知り合い、研究の視野を拡げるためにも積極的に本会を利用して下さい。（Slack での活動については、若手の会への入会を義務としておりません。是非、皆様の周りにも参加をおすすめ下さい。）

会員特典と活動内容

ウェブ勉強会および支部・地区単位での勉強会の開催
若手の会 Twitter アカウントにおける会員の論文紹介
錯体化学若手の会ニュースレター（年4回）の配布
錯体化学会討論会への学生参加登録資格と学生講演賞／ポスター賞の応募資格
錯体化学会誌（BJSCC）電子版の配布
若手の会および錯体化学会会員名簿の閲覧（名簿記載者のみ）
若手の会および錯体化学会メーリングリストによる情報発信
夏の学校の開催（会員は参加費の割引あり）

入会手続き

若手の会の会員は一般会員と学生会員の2種類からなり、それぞれ入会手続き方法が異なります。会員区分を問わず年会費は¥1,000（年度区分は4月1日～翌年3月31日）です。錯体化学会の正会員の方は年会費が免除されます。

- 一般会員 若手の会ウェブサイト「問い合わせフォーム」より事務局へご連絡ください。折り返しご連絡いたします。自動更新されるため、年度ごとの手続きは必要ありません。
- 学生会員 錯体化学会入会申込ページ (<http://www.sakutai.jp/membership/>) にて手続きください。錯体化学会の学生会員として入会手続きすることで、自動的に若手の会の会員として登録されます。若手の会の年会費（¥1,000）以外に、追加の支払いはありません。

※ 学生会員は自動更新されません。年度ごとに更新手続きをしてください。

登録に際して集めた情報のうち、本人の同意がある情報については錯体化学会の会員限定コンテンツにて閲覧可能になります。平成17年4月より「個人情報保護法」が施行になったため、以上をご理解いただいたうえ会員登録の際に名簿への記載に関して同意いただけるかどうかを必ず明記ください。詳細は若手の会ウェブサイトを参照または事務局までお問い合わせください。